

議会だより

116号

2016.10



剣淵パークゴルフ協会と友好都市射水市との交流（射水クラブハウス前）

一般質問	5名が主に災害対策を質す（第3回定例会）	…2～6P
第4回臨時会	防災行政無線（デジタル化）工事請負契約	
第5回臨時会	土木施設費災害復旧工事補正	……7～8P
第3回定例会	教育長任命・教育委員任命他	補正を審議
所管事務調査報告（産建文教常任委員会）		……9P
要望意見書・決議	8件を採択する	……10P
町民インタビュー・親しまれる広報をめざして		……11P
スポットライト「パークゴルフを通じての交流」		……12P
全道議会議員広報研修会・三町議員研修会		

答 水害から地域を守り復旧を早期に進める



早坂純夫 町長

早坂町長
警報発令時は町三役と各課長を班長とし各職員で災害対策会議を開く。方針が決まれば情報共有を強めJAとも連携していく。

高橋議員
警報発令時の対策会議にJAも加えては。

パンケペオツペ川、ペンケペオツペ川は河川管理者が、道や町の違いはあるが、道へ要望書を提出した。刈分川は地先の人達による改修期成会設置の動きがあるので町も積極的に関わり水害防止に努め、まずは復旧に全力を挙げる。

問 水害防止対策と災害復旧は



高橋 毅 議員

高橋 毅 議員
今回剣淵を襲った記録的な集中豪雨は町内に莫大な被害をもたらした。これからの異常気象に対応する水害防止対策と広範囲が被害にあつた時のJAや地先の協力度制、改良区、資源保全組合との復旧費の負担割合、自治会・地域安全部長の活用について次の点について伺いたい。
パンケペオツペ川、ペンケペオツペ川、刈分川、3号川などの水害対策は。

早坂町長

高橋 毅 議員

早坂町長
各組織との費用も含めた役割分担は、自然災害に起因する復旧作

高橋議員
大災害時に、町・改良区・保全組合の費用の負担割合と組織の活用方法は。

早坂町長
災害時の地先の共助と資材の提供の事例としては8月20日に旭町で周辺の人達が共同作業により個々の重機を使い大型土のうを設置し音無川の河川氾濫を抑えた。二次災害の恐れがない場合は地先の重機使用も含め地域の要望に応えていきたい。

高橋議員
災害復旧時に地先関係者の協力と砂利等の資材提供は。

高橋議員

ハザードマップは見直す。自治会や地域安全部長の協力を得て住民の避難誘導や避難所開設と防災研修会も進めていきたい。

早坂町長

高橋議員
大規模災害に備えたハザードマップの再検討と避難誘導時における自治会の活用方法は。



7月31日の大雨で小沢川が氾濫した様子 (西岡町 池田俊夫氏撮影)

業では、原則として管理者が第一責任と考える。しかし道路側溝と農業用排水の兼用排水は費用の一部を負担してもらうこともある。災害発生時には各組織がそれぞれの責任で対応しているが特殊なケースはお互いの連携も必要である。組織の活用は役割分担を強め、天塩川防災会議の時に自助・共助・公助の精神で地域安全、安心を守っていききたいと剣淵の考えを示した所、一番適格だと講評があつたので今後も続けていきたいと考えている。

答 必要と思うので上限の幅は
財政状況を見て検討する



早坂純夫 町長

早坂町長
種子の一部助成については実際の被害査定額が未了であり今後検討されると思う。また、中でも金時は壊滅との情報もあり種子確保も含め対策が必要と考えている。

今回の大雨で農作物が大きな被害を受けたが被害作物に対し種子の一部助成も支援策として必要と思うかどうか。

高橋議員

条例施行規則を改めて周知し情報を共有し丁寧に進めていきたい。

早坂町長

被害を受けた産業者育成資金利用者に対し希望があれば返済延長も必要ではないか。

高橋議員

J Aからの要請により適切に対応したい。

早坂町長

大雨による被害農業者に対しての支援策について伺いたい。まず次年度に向けて農業継続のために農家がJ Aからの融資に対して利子補給すべきと思うかどうか。

高橋一博 議員

大雨による被害農業者に対しての支援策について伺いたい。

まず次年度に向けて農業継続のために農家がJ Aからの融資に対して利子補給すべきと思うかどうか。



大雨によって流された圃場の路肩

高橋議員

金時以外の農作物も被害を受けているが支援対象を金時のみと考えているのか。

早坂町長

一番被害を受けている作物を例として出したが他の作物も対応する必要があれば行いたい。

高橋議員

その他で今回の大雨被害で町として考えている支援策があれば伺いたい。

早坂町長

町としてその他の支援策として被害を受けた方の固定資産税等の減免措置について検討する必要がありと考えている。

農地及び農業用施設小規模災害復旧事業補助の上限の拡大について

高橋議員

町では平成22年度より農地・農業用施設小規模災害復旧事業で対応しているが、現在復旧事業費80万円に対して補助額60万8千円が限度額であり場所によっては復旧経費が多額を要し現在の上限では個人負担が増加する。今後今回以上の災害が発生する恐れがあり、その状況に対応するために現在災害復旧事業補助の上限を引き上げる改正が必要と思うかどうか。

早坂町長

上限の引き上げについては、財政状況から研究が必要と思う。

高橋議員

被害を受けた方の自己負担額を軽減するためにもぜひ上限を拡大すべきと考えるが再度伺いたい。

早坂町長

上限額については財政状況もあるので検討したい。また補助額の算出方法もわかりやすい方法を考えたい。

答 避難準備の告知から迅速かつ丁寧に努める



早坂純夫 町長

問 大雨災害時における町の対応は



大澤秀明 議員

今回、南富良野町の災害では、空知川は絶対に氾濫しないという想定の下整備された河川だったが氾濫してしまった。このことを教訓に町内に雨が降ってなくても他で局地的な大雨が降り町の河川の水位が上昇した時の想定も必要に

大澤議員

道の支援策も検討されているので国や道と連携して早期に実施していきたい。

早坂町長

町の洪水ハザードマップは平成22年に町の一級河川の堤防が決壊した場合に備えたものであるが、今回の大雨ではマップの危険地域から外れた小河川が氾濫したものである。そこで町独自の小河川も含めた詳細なものに更新するべきで早急な対応をとる必要があると思うがどうか。

洪水ハザードマップの見直しは

今回の一連の大雨災害では甚大な被害を受けたが幸い死傷者は出なかった。しかし今後もより町民が安心して暮らせる充実した対応策を考えていかなければならない事から次の3点について伺いたい。

大澤秀明 議員



改訂が望まれるハザードマップ

監視が必要な場所については監視員を張りつけ的確な情報収集に努め、刻々と変わる緊迫した状況の中、避難準備や避難指示を適切に出せたと判断している。結果として人命に関わる被害が出なかつ

早坂町長

今回の一連の雨での避難指示等について判断は適切だったのか。

大澤議員

災害時の避難指示系統について

現段階で一級河川が氾濫しても町の機関はストップしないものと想定しているが、人家のある部分にも被害が大きくなるような対応策を練っていききたい。

早坂町長

なってくると思うがどうか。

町民の不安を早急に取り除くためには応急復旧としての原状回復が当面の対策として望ましいと考えている。その次の段階として補助の状況や財政状況を見ながら恒久対策の「復興」を実施していければと考えている。

早坂町長

災害復旧とは原則現状回復と法律で定義されているが災害箇所によっては、繰り返し被害に遭っている箇所もありそれらの場所は復旧ではなく原状回復以上の対策「復興」が必要であり、町としてどうとらえているのか。

大澤議員

災害復旧について

ホットラインは整備されている。避難準備の内容は「防災のしおり」で周知しているが、期間も経過しているので再度パンフレット等で周知していきたい。

早坂町長

気象台とのホットラインは整っているのか。また今一度町民に避難準備の内容を周知してはどうか。

大澤議員

たのはよかった。

答 実践できる対応要領を策定する



早坂純夫 町長

問 障害者差別解消法の取り組み内容は



畠山弘美 議員

畠山弘美 議員

障害の有無により分け隔てられることなく、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現を目的として障害者差別解消法が今年4月に施行された。この法律に対する考え方と取り組み内容を伺いたい。

早坂町長

町では障害を理由に差別が行われたという話は耳に入っておらず、差別はないと感じている。今後は北海道が示す要領に準ずる形で対応要領を作成し、役場でも周知を行いこれまで以上に、障害のある方の特性に応じた手段で合理的な配慮を提供する。町内にも広めるためパンフレット等で啓発を行う。

畠山議員

担当課だけが取り組んでも効果は期待できない。要領作成時には、何が差別に当たるか当事者の声を聞き現状を理解した上で各課連携して作成すべきと思うがどうか。

早坂町長

基本的な大枠は道に準じるが、関係機関と情報交換をして剣淵に沿ったより良いものを作り上げる。

畠山議員

パートを含めた全職員を対象と

した研修、町民向け研修の開催は考えているのか。

早坂町長

対応要領完成後に所管課と相談し、実施できる方向で進めていきたい。手法は今後十分に検討する。



障害者差別解消法
についてのパンフレット

*北海道発行(左)
*日本障害フォーラム発行(右)

災害弱者の防災対策は機能しているか

畠山議員

災害弱者に対する個別計画や避難所対策は実効性があるのか。ペット同行避難の取り決めはあるのか。

早坂町長

防災計画には弱者に配慮する等の文言はあるが具体的対策は記載されていない。しかし地域包括支援センターでは該当者を把握している。災害対策本部の裁量の中で随時判断して臨機応変に実施してい

畠山議員

く。ペット同行避難は今後改善策を研究する必要がある。ペット対応は防災計画にも記載したい。

早坂町長

乳幼児や妊婦も弱者と認識しているが特別な取り決めはない。粉ミルクやおむつも備蓄していないので今後の課題である。

畠山議員

災害弱者対象の防災教室や避難訓練を実施する予定はあるのか。

早坂町長

弱者に対する研修や訓練は必要だと思う。関係機関と連携しつつ実施できるよう検討して行きたい。



町の備蓄品の一部

答 来年以降は常設設置にできると考えている



早坂純夫 町長

問 浄化センター側の樋門の排水ポンプは常設へ変更すべき



生出孝男 議員

開発建設部の10インチ1台で剣淵の1台半の働きをするという。浄化センターがあるので10インチ2台に入れ替える方が効率的ではないのか。

生出議員

電源の引き込みは8インチ2台が稼働の限界でこれ以上のポンプの設置は不可能。インチ口径を上げて樋門流量から大丈夫という規模ではない。旭川開発建設部に今後必要に応じて派遣を要請したい。

早坂町長

排水ポンプも8インチから最低でも10インチにすることが必要ではないのか。

生出議員

7月31日の集中豪雨では稼働するまでに想定以上の時間を要したことから来年以降は常設設置にできると考えている。

早坂町長

浄化センター側の樋門のところへ設置する排水ポンプは災害時の搬入設置から常設設置へ変更すべきと思うがどうか。

生出孝男 議員

小沢川は道の単独費で改修を進めていたが、予算の関係で中断している現状である。道への要望を

早坂町長

水害防止のため3線川と合流して流れている小沢川の堤防のない所へ堤防を設置するように河川管理者に働きかけることが必要ではないのか。

生出議員

現段階ではリースで手配している。停電時でも稼働できるエンジン付き排水ポンプの設備には数千円かかるので有利な補助金や起債の可能性がないかを含め検討していきたい。

早坂町長

西原町（尾崎宅近くの橋）、南桜町（池田地先）にも常設の排水ポンプの設置が急がれると思うがどうか。

生出議員

ポンプを設置できたことが一歩前進であり、固定式は一箇所数千円という金額になる。まったなしの部分なので総合的に考えて行きたい。

早坂町長



浄化センター付近での開発建設部のポンプ車による汲み上げの様子

今後異常気象が常態化する可能性があるので、地域みなさんの協力を得て浸水箇所、冠水箇所等把握し、浸水想定図及び、避難想定図等の再編等検討していく。

早坂町長

水害時、水の出る所、流れ道や集まる所を地図に落とし把握し、次に役立てるべきではないのか。

生出議員

行く機会があるので、状況を説明して強く要望をしていきたい。

平成28年
第4回臨時会
8月5日

補正予算

- 一般会計に1,898万円を追加しました。
主な内容は、社会保障・税番号制度導入システム改修業務に278万円、民生費の臨時福祉給付金(3,000円×900人)に270万円、障害・遺族年金受給者向け給付金(30,000円×200人)に600万円、鳥獣対策にアライグマ捕獲箱罠を新たに30台購入に80万円などです。

可決

- 国民健康保険事業特別会計に106万円を追加しました。
主な内容は出産育児一時金に不足が生じる予定のため84万円(2名分)、国保事業費給付金システム対応に21万円などです。

可決

- 国民健康保険町立診療所特別会計に10万円を追加しました。
尿検査の精度を高めるため小型尿分析装置の購入代金です。

可決

- 下水道事業特別会計に142万円を追加しました。
下水道公共柵設置工事(仲町教員住宅用、個人宅1件)の費用です。

可決

請負契約

1. 契約の目的：防災行政無線(デジタル移動系)設備整備工事
2. 契約の方法：指名競争入札
3. 契約の相手方：扶桑・ダイマル経常建設共同企業体
代表者 上川郡剣淵町緑町16番9号
扶桑電通株式会社
代表取締役社長 児玉栄次
4. 工事請負金額：5,086万8,000円



被害が拡大しているアライグマ

平成28年
第5回臨時会
9月5日

補正予算

- 一般会計に7,763万円を追加しました。
主な内容は土木施設災害復旧事業の修繕料に6,963万円、刈分川災害復旧工事調査設計委託に700万円などです。

可決

- 国民健康保険事業特別会計に725万円を追加しました。
主な内容は退職被保険者等療養給付費に473万円と高額療養費に171万円などです。

可決



水害時の刈分川の状況



圃場に堆積された流木

補正予算

- 一般会計に4,939万円を追加しました。
主な内容は、特別職報酬等審議会委員費用に9万円、地域おこし協力隊を新たに2名採用したので活動用備品に37万円、下水道事業と簡易水道事業会計繰出金としてそれぞれ458万円、136万円を、廃棄物処理場の水質処理加温用ボイラー修繕に189万円、農地及び農業用施設小規模災害復旧事業に700万円、土木施設災害復旧事業に2,551万円などです。
可決
- 介護保険事業特別会計に330万円を追加しました。
主な内容は国、道負担金等清算返還金329万円などです。
可決
- 簡易水道事業特別会計に272万円、下水道事業特別会計に458万円をそれぞれ追加しました。
内容は経営戦略策定業務にかかる委託料です。
2案件とも可決

質疑

- 高橋一博議員
特別職報酬等審議会はいつ頃開催して何回予定しているのか。また答申はいつ頃か。
- 清水副町長
審議会委員は5名で開催時期は新年度予算に間に合う方向で考えており答申は平成29年1月中と考えている。
- 大澤議員
地域おこし協力隊を新たに2名追加採用予定だがどのような仕事を担うのか。
- 清水副町長
1名は広報担当と考えており、英語が堪能な事もあり国際的な分野の活躍も期待している。
もう1名は事務的な事も含め外部の目線で町づくりに尽力願いたいと考えている。
- 畠山議員
協力隊に対し備品購入とあるが何を購入し、それは貸与なのか。
- 穴戸町づくり観光課長
家電製品の購入であり貸与としている。

人事

- 教育委員会教育長の任命
次の方の任命について議会の同意を求められましたので同意しました。
半田幸清氏 元町23番6号
- 教育委員会委員の任命
次の方の任命について議会の同意を求められましたので同意しました。
西尾 敏氏 屯田町1097番地

○平成27年度普通会計健全化判断比率報告

実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
—	—	5.5%	—
(15%)	(20%)	(25%)	(350%)

※実質赤字額・連結実質赤字額・将来負担額いずれもないことから「—」と表示しています。
※（ ）内は早期健全化の基準数値を表示しています。

○平成27年度資金不足比率報告

特別会計の名称	資金不足比率(%)
簡易水道事業特別会計	— (20%)
下水道事業特別会計	— (20%)

発議

- 閉会中の継続調査の申し出
 - ・議会運営委員会
議会の会期日程など議会の運営に関する事項について
 - ・総務厚生常任委員会
ゴミ処理場の現状と課題について
 - ・産建文教常任委員会
災害復旧の進捗状況について
- 懸案事項の促進及び調査のための議員派遣
 - ・上川管内町村議会議員研修会
平成28年10月26日 場所 美瑛町

産建文教常任委員会
所管事務調査報告書

1. 調査日 平成28年9月13日
2. 調査事項 土木調査
3. 調査の所見

今回の現地調査となった15件のうち11件を実施可としたところである。要望箇所は市街地については主に町道に関する事業が多く、農村部においては排水さらい等に関する事業となっている。

背景には今年の集中豪雨が影響していると思われるが、箇所によって畑の畦の有無も排水埋没の一因と考えられるので、大雨対策として検討すべきである。



南桜町西3号道路の路肩がくずれた状況の視察（7.31の大雨より）

今回の調査箇所で、各自治会や地先で草刈りの管理をしているところが多く見られたが、中には確認しづらいところもあり、調査時には確認しやすいように協力をお願いしたい。また、行政対応に適さない箇所もあり、改良区や地域の資源保全組合などでの対応も必要である。

厳しい行財政であることから限られた予算を有効かつ緊急性に配慮し対応すべきであるが工事内容によっては複数年かかるのもやむを得ないと思われる。

近年、全国的に想定外の災害が多発しており、本町においても日頃から防災意識の啓発と災害時の対応について、再認識を強く望むものである。



元町3線樋門手前のポンプ場
吸水口の移動が望まれる

土木調査箇所及び内容

自治会	箇所及び要望内容	可否	調査結果
1 緑町	南2条（保育所から又野地先間の歩道）	可	数年をかけて改修していく
2 西町	8号川（福川地先）	可	早期対応が必要だが当面切り張り対応
3 緑町	平波団地1条・平波団地2条（側溝と舗装）	可	舗装を車庫側で盛り上げる
4 元町	東3丁目（変電所付近より北側）	不	道路利用率が低いので現状維持
5 元町	3線（3線樋門付近のポンプ場）	可	来年すぐには難しいが根本的対応を考える
6 東町	東3線（杉島地先）	不	下側の側溝を地先で掃除が必要
7 東町	東6線（地神碑から今野地先まで）	可	次年度には対応したい
8 南桜町	西3号（旧五十嵐宅前）	可	道路拡幅を視野に対応する
9 西岡町	7線川（7線の奥の川、2号道路から奥）	可	河川の雑木がひどいので処理対応
10 西岡町	3号（7線～8線間道路側溝）	不	緊急性がないのですぐの対応とならない
11 西原町	12線（3号～4号の中間土留め）	可	工法を考えて建設課で対応する
12 西原町	松井川（島田地先、13線道路から上・下流）	保留	地元の保全組合で少しの間対処してほしい
13 旭町	10号	可	年次計画で安定処理舗装で対応
14 屯田町	8号仲通（4線から北の排水・加部地先）	可	土排水なので重機による排水掃除
15 屯田町	3線（屯田区間）	可	工法を考えて建設課で対応する

要望意見書

第3回定例会では各団体から要請のあった要望意見書を7件採択し各関係省庁へ送付しました。

○林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める要望意見書

(要請団体)

北海道森林・林業・林産業活性化促進議員連盟連絡会

北海道町村議会議長会

○「新たな高校教育に関する指針」の見直しを求める要望意見書

○特別支援学校の「設置基準」策定を求める要望意見書

(要請団体)

ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会

○農業・農村を崩壊させかねない農政改革とTPPの拙速な国会承認の反対を求める要望意見書

○「米政策改革」の抜本の見直しを求める要望意見書

○指定団体制度の堅持など酪農政策の確立に関する要望意見書

(要請団体)

剣淵農民連盟

○災害対策に関する財政措置を求める要望意見書

(要請団体)

上川北部市町村議会議長会

決議

第3回定例会において議員提案により

「JR北海道に公共交通機関としての使命を果たすことを求め、共に道北地域の創生を目指す決議」を決議しました。

今回JR北海道が打ち出した経営改善策は鉄道事業の規模縮小という手段で経営改善をしようという縮小再生産的な手法としか思われません。地方創生の理念と相反する経営規模縮小という手法をとるのではなく、いずれも財政難の団体であることを踏まえた上でも北海道、関係市町村、JR北海道の三者が中核となり、国、関係団体、地域住民の協力や知恵を借り、道北地域の活性化を図る事がJR北海道の使命であり、本町議会といたしましても、地域の発展の為に行動することを決議します。



町民にとって大切な宗谷本線 JR 剣淵駅

平成28年9月21日

剣淵町議会

親しまれる広報をめざして

町民インタビュー

インタビュー 項目

- ① 興味を感じる記事は
- ② 紙面の良い点・改善点
- ③ 町や議会に対する意見

みんなの声まちづくり

若者が剣淵に住めるよう雇用の場を増やしてほしい

仲町 成田 隆一 さん



- ① 一般質問。各議員の町を良くしたいと言う思いが伝わります。
- ② 議場での質問・答弁のやり取りの記事が面白い。
表紙だけでもカラーにすると、より興味がわくと思います。
- ③ 若い人が継続して住めるよう雇用の場を増やしてほしい。
本町に色々な団体があるが名称に老人とつけるのではなくシニアという言葉を用いたほうがいいと思う。
町民の意見を聞く場を増やしてほしい。

一生涯安心して暮らしていける剣淵町であってほしい

西町 西村 京子 さん



- ① 町民インタビュー、スポットライト等が始めに目に留まります。
それから議員と町長の質疑応答記事です。特に子どもや高齢者の記事が気になります。
- ② 写真があったり文字が大きく見やすい点が活字が苦手な人にも読みやすいと思います。
- ③ 医療・交通・学校・保育など生活全般にわたり一生涯安心して暮らしていける剣淵町であってほしいです。

スポットライト

パークゴルフを通じての交流



射水市のパークゴルフ場でのプレー（ナイスショット）

剣淵パークゴルフ協会は、平成8年9月1日に36名の賛同者が集まり設立され、今年で21年目を迎えます。この間会員も徐々に増えてまいりました。これもひとえに先輩会員、役員のご尽力でないかと思えます。協会設立後は「例会大会」を実施してまいりましたが、楽しく遊べることから例会の回数も徐々に増え、現在では年9回開催しています。また、市民の健康増進を目的としたごなたでも参加できる市民大会を実施しております。その他にも色々な記念大会の後援

にも積極的に協力してまいりました。

このような活動をしている当協会が、平成19年「第1回全国パークゴルフ交流大会in射水」の大会に4名の会員が参加したのをきっかけに、大門P.G.協会との交流が始まり、今年で4回目となりました。大門P.G.協会の設立も剣淵P.G.協会と同じ頃ですが、会員数は3倍の会員で活動しています。昨年は16名の会員が剣淵に来町され、起伏に富んだ桜岡高台コースでプレーを楽しみ、さらには夏祭りにも参加され町民との交流も深まりました。今年には12名の剣淵P.G.協会員が射水市を訪れ、パークゴルフで交流を深めてまいりました。交流会の最後には、お互いの繁栄とこの交流が末永く続くことを祈念して参加者全員が輪になり手を取り合い「星影のワルツ」を唄ってお別れしてきました。今後もパークゴルフを通じて交流し、友好都市のまちづくりに協力できればと思っています。

剣淵パークゴルフ協会

事務局 秋庭 良雄さん寄稿

全道議会議員広報研修会

三町議員研修会

和寒町・幌加内町・剣淵町による議員研修会が9月6日和寒町で開催され、和寒町の農山漁村活性化プロジェクト交付金事業の木質バイオマス事業、ふれあいのもりイベント広場事業の研修を受け、三町の議員と事務局職員34名による交流会をふれあいのもりで行ない懇親を深めました。



全道議会議員広報研修会の様子

平成28年度の議会議員広報研修会が8月23日ポールスタール札幌で開催され、広報委員全員と事務局職員が参加しました。「住民に読まれ議会活動が伝わる、議会広報の基本と編集技術」と題し、議会広報サポーターの芳野政明氏による講演と、10町議会より広報クリニックに応募のあった広報の良い点、悪い点の講評

がありました。写真の使い方、笑顔あふれる表情、余白部分、単一的にならないよう注意する事などを学び、議会広報の目的は住民の議会への関心を高めること、地域の課題を共有し、自治体の仕事内容をチェックする判断材料の提供にあります。これらを通して住民の自治意識を醸成することの大切さを強調していました。翌日ホクレンビルで「広報ほくれん」の取り進め方について、ホクレン広報総合課の松川さんから昭和58年より発行され全道各農家やJAに年12回届けられている広報紙の作り方のポイントを学び、ホクレン常勤監事の佐久間さんを表敬訪問しました。



三町議員研修会